

「話題 45 移転する水土の知 —— 愛知用水を例に」を読んで

X 生(水資源開発公団 OB)

話題提供者がこの大テーマに挑戦されたことに敬意を表します。

話題提供者はあとがきで話題が少しずつ充実されるよう意見、感想等が寄せることを期待されています。愛知用水大学校で学んだ者、水資源公団関係者から積極的な意見、情報等が提供されることを私も願い、愛知用水についての知見はまことに低いのですが、意見、情報提供の呼び水となるべく、以下 3 点感想を述べます。

1. 愛知用水大学校を再び

愛知用水には全国から優秀な技術者が出向し、ともに技術を研鑽し、完了後はその技術を携えて出向元に帰りました。また水利事業に携わった技術者は愛知用水を訪ねて学び、あるいは貴重な参考図書として愛知用水技術誌のページをめくりました。愛知用水大学校といわれるゆえんです。

いま全国の水利施設は、建設後老朽化しつつある施設の保全、環境の変化等に順応するための性能の変化への対応、生態系ネットワークの形成など多くの課題を抱えています。愛知用水は本話題にあるようにこれらに先駆的に対応してきましたが、愛知用水を引き継いでいる水資源機構が愛知用水大学校を再び開校することが期待されます。

2. 愛知用水は学んだが、日本は学ばなかった

「2. アメリカから学んだこと」にある、総合事業、一貫施工、短期施工は愛知用水では実現しましたが、その後の水資源開発、かんがい排水事業では失敗しています。財政の単年度主義、資源(財源)の公平な配分等やむをえない事由があることは分かりますが、工期は延び、効果発現は遅れ、償還も滞る例が多く見られます。話題に述べられている、世銀借款が全国規模の農業開発公社案でなく特定地域の開発に限定された世銀の判断に感心しているところです。

3. 中国は学ぶことができるか

話題提供者の中国に対する並々ならぬご努力に敬服します。中国の農村が安定することは地球環境にとっても大変大事なことです。

水利施設を建設することは比較的容易です。しかし本話題で述べられているように、建設された水利施設の機能を社会・経済情勢や環境の変化に対応して十全に発揮させるには受益者が共同して能動的に対応することが不可欠です。愛知用水の受益者には長年にわたり培われた〈水土の知〉がありましたし、国、県、公団も性能の変更に柔軟に対応しました。

中国が愛知用水の管理の仕組みを習うことは技術的には可能でしょうが、共同して能動

的に対応するという水利の基本を確立することは現在の国情からは容易ではないと感じます。「4.(4)中国が最も学んだこと」にある話題提供者の中国への思いが中国に理解されることを願っての心配です。